

1月24日・25日 市内各所 文化財を火災から守る



消火器の使い方を学ぶ

1月26日の「文化財防火デー」に併せ、文化財の火災予防対策を一層推進するため、市内10カ所の施設で消防本部による立入検査を実施しました。

広兼邸、旧片山家住宅、高梁市郷土資料館では、立入検査の後に消防署員の指導による消火器の取り扱い訓練も行われました。

1月20日 高梁市民体育館(落合町) 自分の記録に挑戦!



元気よくジャンプする児童

「第31回体力づくりなわとび大会」(高梁ライオンズクラブ主催)が開催され、高梁市、新見市、吉備中央町の小学生約400人が日ごろの練習の成果を発揮しました。

10人1組で2度の跳んだ回数を競う団体の部には31チームが出場。個人戦では学年ごとに分かれ、連続して跳ぶ時間を競いました。

1月27日 旭川・百間川ランニングコース(岡山市) 「高梁市」のたすきをつなぐ



駅伝に出場した高梁市チームの皆さん

「第8回『晴れの国岡山』駅伝競争大会」(岡山陸上競技協会主催)が開催され、22市町から27チームが出場しました。高梁市は6回目の出場。

岡山市の旭川・百間川ランニングコース(9区間42.195km)を中学生4人、高校生3人、社会人2人がゴールを目指してたすきをつなぎ、総合18位の成績を収めました。

1月26日 成羽地域局(成羽町) 文化ホールの整備に役立てる



目録を手渡す伊藤謙介さん

本市出身で京セラ(株)元代表取締役会長の伊藤謙介さん(京都市)から、成羽複合施設(仮称)の文化ホール整備に対し5億円の寄付をいただきました。成羽総合福祉センター跡地に建設する同施設は、2020年6月の開館予定。250席を備えた文化ホールのほか、成羽地域局や公民館、図書室などが整備されます。

高梁偉人列伝 ②



熊田恰 像
高梁市歴史美術館蔵

幕末の動乱期、備中松山藩でただ一人犠牲となった人物、それは自ら人命を救った「熊田恰」です。恰は城下本丁(現在の内山下)の新影流剣術師範・熊田家の三男として生まれ、幼少より剣術に励みましたが、修行中の事故で片目を失い、至ったと言われています。その後、家を継ぎ剣術師範となった恰は多くの門人を輩出。また、備中松山藩主板倉勝静の護衛役として門弟とともに警護にあたりました。

慶応4(1868)年1月3日、鳥羽伏見の戦いで新政府軍に惨敗した將軍徳川慶喜は大坂から江戸へ撤退。勝静もそれに同行しますが、随行していた恰率いる護衛隊約150人は帰藩するよう命じられました。恰らは大坂から海路にて帰藩、同月17日に備中松山藩領の玉島へ帰着しましたが、このとき、藩は朝敵として備前岡山藩(鎮撫使)による征討を受け降伏してしまいました。そして、恰らの上陸を警戒した鎮撫使は軍隊を差し向け玉島を包囲します。緊張が高まるなか、恰の一隊は武装解除の上で謹慎していましたが、恭順の意を態度で示すよう要求した鎮撫使は恰の首を強く求めました。

このような切迫した状況下で、備中松山藩の上層部が事態の解決を図るも進展せず、藩存続のためには恰の切腹もやむを得ないとして、密使により恰へこの藩論を伝えました。死を覚悟した恰は同月22日、部下を救うために助命嘆願書を作成。午

前11時頃、西爽亭(旧柚木家住宅・倉敷市玉島)次の間にて混乱の責任を負い切腹しました。その後、軍隊による玉島の包囲は解かれ、刃を交えるという最悪の事態を回避し護衛隊約150人も命をつなぐことになりました。

「神」となった恰

恰の自刃は藩存続のために起きた悲劇と言えますが、その一方で多くの人命が救われました。

玉島の人々は恰を英雄として崇め、羽黒神社境内(倉敷市玉島)に遺刀を奉納して熊田神社を建てました。高梁では、八重籬神社(内山下)の摂社として熊田神社と顕彰碑が建立され、その忠義を讃えています。

恰の墓がある道源寺(和田町)には、助命された護衛隊の有志が灯笼と手水鉢を寄進しており、隊士たちの恰への感謝の気持ちを偲ぶことができます。

恰は、降伏した藩の立場や多くの命が失われかねない切迫した事態を解



熊田恰が切腹した西爽亭次の間

幕末の偉人伝 ④

熊田恰

隻眼の剣士

玉島事件

文

西雄大

高梁市歴史美術館学芸員